

ハーモニー

Harmony

第89号 2022年11月8日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@as.bunken.co.jp

目次

| | |
|---|--------------------------|
| 第30回学術集会へのお誘いと企画紹介……………1 | 【会員交流③】学校現場での体験的な学びで育つ…7 |
| 第30回学術集会(学会設立30周年記念集会)プログラム…2 | 第2回(2022年度)定時総会(代議員総会)の |
| 学会設立30周年記念事業について……………5 | 開催について(予告)……………8 |
| 学術集会で助成金研究の報告を行います……………6 | 事務局より……………8 |
| 2022年度「研究助成金研究」の進捗報告……………6 | 編集後記……………8 |
| トピックス:「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する 調査研究協力者会議」が公表した『議論の整理』について…6 | |

一般社団法人日本養護教諭教育学会 第30回学術集会へのお誘いと企画紹介

学会長 山崎隆恵(北海道教育大学)

木々の葉も見事に色づく季節となりました。時節柄ご多用の折と拝察いたします。ここ3年程新型コロナウイルス感染症への対応のため、オンライン学会が2回続きました。今回は一歩進めてハイブリッドで開催いたします。改めまして、学術集会へのお誘いをさせていただきます。

メインテーマは「職制80年を経た今、養護教諭の実践の可視化について探究する」とし、学会設立30周年記念集会を同時開催します。

養護教諭の実践の可視化の過程を通して、見えにくいもの、わかっていても見過ごしがちなことは何か省察し、何が見えていないかを究めたいと構成しました。シンポジウムでは、テーマに迫るため、小学校教諭の藤原氏をはじめ教育現場等で実践している4名の方々にご提言いただきます。特別講演は、30周年記念との共同企画として、養護教諭が主人公である『この歌をあなたへ』(2021年・祥伝社文庫)の著者、大門剛明氏にお願いしました。養護教諭がどのように氏の目に映っているかを語っていただきます。ワークショップは「可視化」を意識したテーマで3題予定しています。

学会設立30周年記念行事は、30周年記念実行委員会の企画・運営となります。

オンラインのライブ配信は、開会式・学会設立30周年記念式典、特別講演、学会長基調講演、シンポジウム、研究助成金研究発表、口演発表、ランチョンセミナー、総会報告、ワークショップについて行い、オンデマンドは、12月11日(日)～27日(月)に配信予定で、学会長基調講演、シンポジウム、一般口演、ワークショップとなります。

事前に抄録集を入手されたい方は、**11月15日までに**第30回学術集会ホームページからお申し込みください。合わせて、郵便局にて参加費等をお振込みください。会場当日支払い、参加受付もできます。

会場参加の方の昼食については、1日目は各自でお願いいたします。2日目のランチョンセミナーでは、無料のお弁当を配付いたします。

◇連絡先◇

第30回学術集会事務局 jayte30.2022@gmail.com

※宿泊申込は各自でお願いいたします。

特別講演講師 大門剛明氏について

2009年『雪冤』で第29回横溝正史ミステリ大賞とテレビ東京賞をダブル受賞し作家デビュー。死刑制度と冤罪に真正面から挑んだ社会派ミステリ。以降次々と新作を発表し、社会派ミステリの新星として注目を浴びる。その大門氏が、『この歌をあなたへ』では養護教諭を主人公としたことから、彼の目を通した養護教諭の世界や制作秘話を語っていただく。

メインテーマ「職制80年を経た今、養護教諭の実践の可視化について探究する」

≪2022年12月3日(土) 11:30～受付 1階ホワイエ/会場 1階小ホール≫

◆開会式・学会設立30周年記念式典(12:30～13:10)

◆第30回学術集会・学会設立30周年記念集会共同企画 特別講演(13:20～14:20)

..... 座長 後藤ひとみ(本学会理事長)
「推理作家大門剛明氏から見た養護教諭の世界」 講師 大門 剛明(推理作家)

◆学会長基調講演(14:30～15:10) 座長 松永 恵(茨城キリスト教大学)
「子どもとの出会いから始まる養護実践」 山崎 隆恵(北海道教育大学札幌校)

◆シンポジウム(15:20～17:20)

テーマ:「養護教諭の実践の可視化について探究する」

コーディネーター 青柳 千春(高崎健康福祉大学)
丸山 範子(神奈川県立横浜緑園高等学校)

シンポジスト 留目 宏美(上越教育大学)
藤原 友和(函館市立万年橋小学校)
佐藤 芳美(札幌市立北園小学校)
澤村 文香(埼玉県教育局県立学校部保健体育課)

◆情報交換会・学会設立30周年記念祝賀会(18:00～) ロイトン札幌

≪2022年12月4日(日) 9:00～受付 3階エレベーターホール≫

◆学会設立30周年記念展示・3分スピーチ(9:00～15:30) D会場(403)

◆研究助成金研究発表(11:10～11:40) A会場(4階講堂)

..... 座長 鈴木 裕子(国士舘大学)
「危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援
—新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに—
○坂井三代子(愛知県一宮市立南部中学校) 他

◆総会報告(13:10～13:30) A会場(4階講堂)

◆口演発表A(9:30～11:10) A会場(4階講堂)

◇口演発表A-I(9:30～10:10) 座長 斉藤ふくみ(北翔大学)
<原論、歴史>

A-I-1 養護教諭の倫理綱領を見直す—社会的変化と子供の発達及び人権教育の今後—
○鎌田 尚子(女子栄養大学) 他

A-I-2 男性養護教諭の視点を通じた養護教諭に必要な子どもへの配慮に関する研究
○丹羽 七海(北斗市立石別小学校) 他

◇口演発表A-II(10:10～11:10) 座長 加藤 晃子(学校法人滝学園滝中学校滝高等学校)

< 養護実践 (健康相談) >

A-II-1 保健室での子供との会話を可視化する (第4報)

—コロナ禍での「会話ノート」の活用—

○渡辺 誓代 (金沢市立泉小学校)

< 養護実践 (保健室経営) >

A-II-2 保健室来室状況を「生徒の第一声」と「養護教諭の判断」の二段階で記録する

利点について～保健室来室者管理ソフト Angel を使って～

○山根 悦子 (神奈川県立永谷高等学校) 他

A-II-3 保健室利用状況を活用した教職員との情報共有

○田口 芳佳 (札幌市立札幌北中学校)

◆口演発表B (9:30~11:50) B会場 (301)

◇口演発表B-I (9:30~10:30)..... 座長 西岡かおり (四国大学)

< 養護実践 (健康教育) >

B-I-1 自分なりのウェルビーイングを実現できる生徒の育成

—養護教諭による健康力を高めるための実践を通して—

○杉浦なお実 (西尾市立東部中学校) 他

B-I-2 健康課題の解決に向けた保健教育に関する研究

—保健体育科保健分野におけるストレスマネジメント教育を通して—

○山角亜沙美 (北海道教育大学附属札幌中学校)

B-I-3 養護教諭が行うレジリエンス育成を目指した保健指導の効果について

—小学校6年生を対象として—

○近藤 千穂 (福山平成大学) 他

◇口演発表B-II (10:30~11:10) 座長 高田 真弓 (北海道教育委員会 指導主事)

< 養護実践 (保健組織活動) >

B-II-1 課題解決型の保健室経営計画による組織的な学校保健活動の充実

—ロジックモデルによる実践を通して—

○利岡 美音 (小松市立南小松島小学校)

B-II-2 心肺蘇生法講習を短時間で効果的に実施するための研修過程の考察

—30分間で実施する研修の効果と実践結果—

○北川 瑠菜 (愛知教育大学附属特別支援学校) 他

◇口演発表B-III (11:10~11:50) 座長 外山 恵子 (愛知県立日進西高等学校)

< 養護実践 (保健組織活動) >

B-III-1 現職研修における心肺蘇生法講習の効果的な実施方法についての一考察

—教職員の知識や態度に及ぼす影響についての経年変化及び調査報告—

○圓岡 和子 (愛知教育大学附属高等学校) 他

B-III-2 校内現職研修において心肺蘇生法講習を効果的に実施するための研修過程の考察

(2) —先行研究を踏まえた実施後の調査報告—

○清水 麻夕 (愛知県立三好高等学校) 他

◆口演発表C (9:30~11:50) C会場 (305)

◇口演発表C-I (9:30~10:10)..... 座長 石田 妙美 (東海学園大学)

<養成教育>

C-I-1 性的リスク対処意識向上を進める性教育に関する一考察

—養護教諭志望学生への質的研究を通して—

○貴志知恵子（徳島文理大学）他

C-I-2 「実践研究」を通して育成する養護教諭の資質能力についての分析

—中学生の心身の健康に対する意識変化と行動変容を促す養護教諭の実践を通して—

○浅田 知恵（愛知教育大学）他

◇口演発表C-II（10：10～10：50）……………座長 上原 美子（埼玉県立大学）

<養護実践（保健管理）>

C-II-1 養護教諭の行う救急処置活動の実態と課題

—校内組織と連携したけが発生予防の取組から—

○佐藤 倫子（札幌市立日新小学校）他

C-II-2 学校救急処置における医薬品使用と管理についての研究

○新谷 ますみ（弘前大学）他

◇口演発表C-III（10：50～11：50）……………座長 岩崎 和子（関西福祉科学大学）

<他区分（キャリア）>

C-III-1 キャリア意識がウェルビーイングにもたらす影響に関する研究

○信藤 佳奈（大阪人間科学大学）他

<他区分（ヤングケアラー）>

C-III-2 インタビュー調査からみえた小学校養護教諭のヤングケアラー対応への課題

○辻 京子（香川大学）他

<他区分（新型コロナ）>

C-III-3 児童のゲーム等の使用時間の意識とストレス・日々の予防行動や生活との関連

—新型コロナウイルス感染症の休校中におけるA小学校児童の実態調査から—

○国藤ゆかり（三原市立南小学校）他

◆ポスター発表（9：30～11：50） P会場（402）

◇ポスター発表P-1・2（9：30～10：10）……………座長 山田 玲子（北海道教育大学札幌校）

<養成教育>

P-1 養護教諭講師1年目初期における思いからの考察

○大塚 朱美（千葉科学大学）

P-2 養護教諭特別科生が修了時に覚える新規採用時の不安

—2年間の比較—

○河田 史宝（金沢大学）

◇ポスター発表P-3・4（10：10～10：50）……………座長 丸岡 里香（北翔大学）

<養成教育>

P-3 バーチャルスクールを用いた学校危機管理に関する学修成果の検証

○石井有美子（徳島大学）他

P-4 コロナ禍における養護教諭養成大学の病院臨床実習の代替事例

○石田 妙美（東海学園大学）他

◇ポスター発表P-5・6・7（10：50～11：50）……………座長 井澤 昌子（名古屋学芸大学）

<現職教育>

P-5 若手養護教諭のレジリエンス向上を目指す研修プログラム開発

○阿部眞理子（横浜創英大学）他

< 養護実践 (健康教育) >

P-6 幼児参加型の保健室前掲示物から考える幼児期にふさわしい保健教育

○池上 佳那 (札幌市立白楊幼稚園)

< 養護実践 (保健室経営) >

P-7 ヤングケアラーを支える保健室経営の提案

○上原 美子 (埼玉県立大学) 他

◆ランチョンセミナー① (12:00~13:00) A会場 (4階講堂)

..... 座長 佐藤 倫子 (札幌市立日新小学校)

フェリング・ファーマ株式会社「意外と知らないおねしょの話」

鎌崎 穂高 (元 札幌医科大学附属病院 小児科)

◆ランチョンセミナー② (12:00~13:00) B会場 (301)

..... 座長 西野 昭子 (市立札幌みなみの杜高等支援学校)

大塚製薬株式会社メディカル・アフェアーズ部「学校現場での頭痛~背景とその対応~」

「なやましい子どもの頭痛~捉え方と対応を中心に~」

呉 宗憲 (東京医科大学 小児科・思春期科学分野)

「青年期以降で気になる頭痛~片頭痛、脳脊髄液漏出症などを交えて~」

光藤 尚 (埼玉医科大学 脳神経内科)

◆ワークショップ (13:40~15:30)

① A会場 (4階講堂) 「子どもが抱える困りにどう寄り添うか」

講師 山田 恵美 (札幌市立光陽中学校 養護教諭)

② B会場 (301)

「やってみよう! ホワイトボードを使った解決志向のチーム会議

~可視化でチーム支援~」

講師 吉田ゆかり (北照高等学校 スクールカウンセラー)

③ C会場 (305)

「リスクマネジメント・クライシスマネジメントを可視化する」

講師 渡辺 千鶴 (札幌市立星友館中学校 養護教諭)

学会設立30周年記念事業について

総務担当常任理事 大川尚子

ハーモニー第88号で後藤理事長より、学会設立30周年記念事業の企画等について報告がありました。その後の進捗状況をお知らせします。

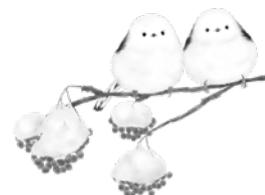
現在、学会設立30周年記念事業実行委員会にて具体化を進めているところです。

すでにお知らせのとおり、本事業は3つの柱(①記念式典・特別講演・祝賀会、②記念展示・3分間スピーチ、③記念誌発行)による企画が予定されています。

「3分スピーチ」は、「会員の方々から動画でメッセージをいただき、日本養護教諭教育学会設立30周年の振り返りと今後の発展に向けた示唆を得る。」という趣旨を、8月8日付けで学会HPでお知らせさせていただいています。お申し込みいただいた会員の皆様には、A. 養護教諭教育学会の設立

30周年を迎えて会員からのメッセージ、B. 養護教諭へのメッセージ、C. 養護教諭としての展望や思い(養護教諭という職への思いなど)を3分程度の動画で提出していただき、第30回学術集会の会場で繰り返し放映する予定です。学術集会後の放映の同意が得られた方の動画のみ、学術集会で視聴できなかった参加者を対象に、1週間程度視聴できるようにする予定ですが、ぜひとも学会に対面でご参加いただきまして、会員の皆様の熱い思いをご視聴ください。

学会設立30周年記念誌の発行につきましては、2023年3月末の発行予定です。詳細については決まりしだい学会HPでお知らせいたします。



学術集会で助成金研究の報告を行います

学術担当常任理事 鈴木裕子

本会では、養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）に関する特色ある研究に対して研究助成を行っています。その成果は、毎年の学術集会で報告するとともに、後日、学会誌に論文として掲載することになっています。

第30回学術集会では、2021年度の助成金研究「危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援—新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに—」（研究代表者：一宮市立南部中学校 坂井美代子会員）の報告があります。学術集会2日目の12月4日（日）11時10分からA会場にて行います。一部の一般演題発表と時間が重複してしまいますが、ぜひ多くの皆様のご参加をいただけますようお願いいたします。

なお今回の学術集会でも、一般演題の中から投稿奨励研究の推薦を行う予定です。養護教諭教育の発展につながる充実した発表を期待しています。

学術委員会へのお問い合わせは下記まで。

国土館大学文学部 鈴木裕子（学術委員会担当常任理事）
メールアドレス suzukiyu@kokushikan.ac.jp

2022年度「研究助成金研究」の進捗報告

会員 平井美幸（大阪教育大学）

研究テーマ「教員育成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発」を本学会研究助成金対象研究として選定いただき、誠にありがとうございました。

会員4名（研究代表者：平井美幸、橋弥あかね、本田史歩、森田英嗣）で取り組んでいる本研究は、大阪府を代表するいくつかの自治体と大阪教育大学との共同研究を通じて研究代表者が新たな研究疑問を構想し、会員4名の立場と強みを生かすことで、研究計画を立案しました。

本研究の目的は、コンピテンシーベースの行政研修の実施に示唆を得るため、教員育成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルを開発することです。「学校保健活動推進の中核的役割」を果たす養護教諭は、学校保健領域のミドルリーダーへと、その職能成長が期待されます。自治体独自の教員育成指標をふまえた学校保健領域のミドルリーダーが兼ね備えるコンピテンシーとは何か。明らかにするコンピテンシーを基盤とした行政研修への示唆とは何

か。私たちは研究的な関心をもってしています。

現在は、2本立てとなる調査の実施に向けて準備をしているところです。新型コロナウイルス感染症の猛威は、今年度前半も続き、本研究の対象者である養護教諭の先生方にも多大な影響を与えました。これまでは対象者の先生方がおかれる状況を見守っていましたが、ようやく、やや落ち着きを取り戻しつつあるのではないかと考えました。まだ予断を許さない状況ではありますが、新興感染症の対応を迫られ続けている学校現場において、学校保健領域のミドルリーダーコンピテンシーを追究していきたいと考えています。

トピックス

『養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議』が公表した『議論の整理』について

理事長 後藤ひとみ

中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月26日）が出された後の3月に、文部科学大臣から同審議会に対して「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方についての諮問がなされ、現在、これに基づいた審議が進められています。

このような背景のもと、令和4年3月の閣議において、「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方に係る議論の動向並びに当面する学校保健及び食育に関する課題等を踏まえ、養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に向けた検討を行うための「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」（以下、本協力者会議）の設置が決定されました。

第1回会議（令和4年5月12日）以降、6月13日、7月29日、8月29日と4回の会議が開催され、本年9月9日に本協力者会議による『議論の整理』が公表されたので、その概要を紹介いたします。

公表内容は14頁にまとめられ、全体は4つの柱で構成されています。例えば、「2. 養護教諭及び栄養教諭を取り巻く現状について」の「法的位置付け」では、学校教育法で規定されている両職種の任務や学校種ごとの配置根拠（表1）が示され、養護教諭については「当分の間、置かないことができる」という学校教育法附則の規定により設置主体による配置率の差異があると後述されています。また、教育公務員特例法で規定されている研修の状況等（表2）では、養護教諭も栄養教諭も法律上義務付けられていない研修が

任命権者の判断で実施可能になることを述べています。

「3. 課題及び解決に向けた方向性について」では、本協力者会議の検討は養護教諭や栄養教諭に特有の課題に着目して、その資質能力の向上にむけて特に重要な点に絞って指し示すとして、次の4項目に関する課題と検討の方向性を述べています。「(1) 求められる役割(職務の範囲)の明確化」では、第4回会議での提案文章が会議後に修正された箇所があり、「学校経営等について、他の教諭等と同様に参画するほか、」「その専門性を生かした固有の職務として、」が協議の成果として加筆されました。

「(2)「資質の向上に関する指標」を基軸とした養成と採用・研修の接続、連携」では、教育公務員特例法の改正により令和5年度から「研修等に関する記録」の活用による研修サイクルの活性化が示唆されています。なお、養護教諭の養成に係る教職課程に関しては、多様な養成機関があるため、「養護に関する科目」に係るコアカリキュラムの作成だけでは求められる資質能力の全てを担保できるとは限らない状況があるとして、関係者間で認識を共有しながら引き続き検討を進めていくことが適切であると述べています。「(3) 新たな教員研修制度下における実効性のある研究機会の確保」では、新たな研修制度に伴う校内研修の重要性やオンライン研修の充実等を示し、仮に養護教諭や栄養教諭の研修が法律上の位置付けがないことで実施に支障が生じている教育委員会等があれば、その状況等もふまえて検討する必要があると述べています。「(4) 職務遂行のインフラとしてのICTの積極的な活用」では、仮に教諭等に比して養護教諭や栄養教諭のICT環境の整備が遅れている現状があれば、教育委員会等の責任において早急に整備を進めるべきとの記述があります。

『議論の整理』は、本協力者会議の委員間において一定の共通理解が得られた事項についての中間的なまとめであることを勘案すれば、この報告を契機として関係者の議論の活発化をめざす必要があります。よって、本学会も上述のような検討の方向性を分析した上で「令和の日本型学校教育」を担う養護教諭の在り方について検討すべきと考えます。会員の皆様には、学会HPに『議論の整理』に関係する法規等をアップしますのでご参考いただければ幸いです。

.....
【会員交流③】

学校現場での体験的な学びで育つ
.....

神田奈津子(名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科)

先日、コロナ禍における3度目の養護実習が終了しました。大袈裟かもしれませんが、この時期、養護実習を終えた学生と接していると「ずっと芯が通った(通ってきた)」と感じ

ることがあります。4週間の養護実習では、学生は学校現場で児童生徒や教職員との触れ合いを通して学びを深めるなかで、養護教諭としての自らの課題を突き付けられ、「自分は養護教諭に向いているのか」「養護教諭としてやっていけるのか」との迷いや揺れが生じます。その迷いや揺れと向き合いながら、卒業までに「どうしたら」「何をしたら」自分の理想とする養護教諭像に近づけるのかと試行錯誤する学生の姿に「芯が通った」と成長を感じることが出来ます。担当教員としては、成長した学生の姿から、養護実習を引き受けてくださった現場の養護教諭の先生方への感謝への思いとともに、学校現場での体験的な学びの重要性を改めて実感しています。

このような学校現場での体験的な学びの機会は、養護実習の他にも「学校体験活動(いわゆる学校インターンシップ)」があります。学校体験活動は、「教員を目指す学生に、学校の様子や教員の仕事についての理解を深めさせることを目的として、一定の期間にわたり、学生に授業や学校行事、部活動に関する支援や補助業務を行わせる活動」であり、学生にとっては学校現場を理解し、教職への適性や進路を考える機会となります。さらに受け入れる学校現場においても、学校の教育活動を支援する人材の確保という点でメリットがあるとされています。2019年度から改定・施行された教育職員免許法に基づき、各大学等における教職課程の「教職に関する科目」に「学校体験活動」を含めることが出来るようになりましたが、教職課程への位置づけは各大学の判断に任せられており、課外活動として取り組まれている大学もあります。本学も課外活動として、保健室ボランティアや学習支援ボランティアなどの学校現場での体験活動を行っています。

朝ドラの舞台となった沖縄本島北部「やんばる」地域に所在し、北部12市町村(北部広域市町村圏事務組合)が設立する公立大学である本学の特徴は、地域とのつながりを活かした課外活動やボランティア活動がとても盛んであることです。教職に関連した活動例を挙げると、学校健康診断や日常の保健室業務の補助を行う保健室支援ボランティア、学習支援ボランティア(生活困窮世帯小中学生を対象としたもの、離島やへき地の小中学校、放課後の学校や自治会が主催するものなど)、始業前の中学校で行われる子ども食堂の運営サポートなどがあります。訪問先で思いがけず学生に遭遇することもよくあり、その度に大学の授業の時とは違う学生の姿を誇らしく思ったり、その姿を授業内で引き出せていない自分自身を反省したりしています。

また、コロナ禍で一時中断していましたが、養護概説や養護実習事前指導などの正課授業と連動した小中学校に

おける健康教育を実践する機会も戻りつつあります。この活動では、大学生とタイアップした健康教育を希望する近隣の小中学校にご協力いただき、課外活動として小中学校での授業実践を行います。児童生徒の健康課題や授業の目標など授業づくりに必要な情報を得て、指導案を作成し、学校との打ち合わせを経て、授業内での模擬授業を行います。最後に実際に小中学生を前に授業を行うという流れです。学生と学校双方に負担がかかる活動ではありますが、養護実習前の学生にとっては現場の養護教諭や教諭から指導を受けられることや実際の児童生徒の反応を体感することができること、学校には大学生とのピアエディケーションによる健康教育が期待できることなど、お互いにとってプラス面もあることから、少しずつ活動の機会も増えてきています。

つい最近、県外の小学校養護教諭に採用された卒業生から嬉しい報告がありました。一つは、学生時代の課外活動での授業実践をICT機器活用バージョンにブラッシュアップしたものを所属する地区養護教諭研究会で活用していることです。二つめは、「学生時代に学校現場で児童生徒や養護教諭をはじめとする教職員と関わることで大学での学びがより深まり学習にも意欲的になった」と後輩に向けて語っていたことです。卒業生の姿は「学校現場での体験的な学び」の成果を感じ、胸が熱くなりました。これも現場の養護教諭の皆さんの後輩を育てたいという思いのおかげです。

これからも学校現場と連携しながら、実践力のある養護教諭を育てていきたいと思っております。

一般社団法人日本養護教諭教育学会 第2回(2022年度)定時総会(代議員総会) の開催について(予告)

理事長 後藤ひとみ

本学会の定款第22条の規定により、下記日時にて定時総会を開催いたします。代議員の皆様には、会日の2週間前までに招集通知等を送らせていただきます。なお、会員を対象として、第30回学術集会の会場にて2日目の午後1時10分から20分程度の「総会報告」をいたします。詳細は学会HPをご覧ください。

- 開催日時 2022年12月2日(金) 15時～17時
- 開催会場 北海道教育大学札幌駅前サテライト
- 主な議事 2021年度事業報告、2021年度決算報告、2022年度事業計画、2022年度予算案、2022年度の理事の再任、役員旅費規程の一部改正、名誉会員の推戴等

事務局より

事務局長 加藤晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

●会費納入について

2022年度(2022.10.1～2023.9.30)の会費請求書は、既にお手元に届いていることと思います。学会の円滑な運営のために、早期の年会費納入にご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、請求書のデータは、10月13日時点での情報となっております。すでに納入されている場合は、失礼の段をお許しく下さい。

●メールリスト作成のお願い

Eメール登録がお済みでない方は、HPからの入力(変更届フォームあり)、または学会事務局(東京のアカデミーセンター)へのメール・FAXでお知らせください。

●『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>』の購入について

ご連絡は学会事務局までお願いします。その際、至急ご入用の方は、その旨をお知らせください。

●入会のお誘い

本学会は、養護教諭を冠した全国唯一の学会であり、養護教諭という職種の発展のために学術的活動を進めています。養護教諭教育(養護教諭の実践、養成教育、現職教育)に関心をお持ちの方を是非お誘いください。

編集後記

ハーモニー第89号を発行するにあたり、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

いよいよ第30回学術集会がハイブリット形式で北海道の地で開催されます。対面で会員の皆様にお会いできるのは3年ぶりでしょうか。オンラインに慣れてきたところではありますが対面での醍醐味を楽しめるといいですね。また、30周年記念事業も予定されており、これまでとこれからの思いを馳せたいと思います。

ハーモニーでは、今後も会員の皆様との交流を図りながらお届けしていきたいと思っています。ハーモニーを通じて、会員の皆様の日頃の実践や保健室でのエピソード、感想などを届けてみませんか。

kaori-n@shikoku-u.ac.jp メールを受け付けます。

(西岡かおり, 山本訓子)